

住民等避難訓練の概要（11月19日実施分）

広報



消防車、パトカー
による広報



緊急速報
メール



防災行政無線

避難



一時集結所運営



自衛隊車両に
よる緊急避難



JR避難



バス避難



パトカーによる避難誘導

平成29年度原子力防災訓練

(島根原子力発電所対応)

訓練実施結果

境港市

1

境港市原子力防災訓練（成果及び課題）

訓練項目	成果	課題等
災害対策本部運営訓練等	市警戒本部運営訓練及び市災害対策本部運営訓練、県災害対策本部及び国・2県6市によるTV会議を通じて、原子力災害発生時の初動対応要領について確認することができた。	1 市対策本部と市の各対策部を含んだ組織的な訓練を行う必要がある。 2 放射性物質放出後の住民避難を含んだ本部運営訓練を検討する。
多様な手段による住民避難訓練	1 バス、JR及び自衛隊車両（陸自ヘリは中止）による避難訓練が実施できた。 2 海上自衛隊艦船「ひうち」への乗艦、船内見学、避難行動等の説明により、船舶避難訓練の理解を深めた。（鳥取港への避難訓練は中止）	1 49歳以下の参加割合が若干増えたが、依然として60歳以上の参加者が3/4を占めている。引き続き、防災訓練、出前講座、PTA等に対する働きかけ等により、若い世代に参加を求める。 2 船舶避難訓練は訓練効果が低い。行うのなら多くの住民が参加できる訓練にすべきである。
避難行動要支援者の避難訓練	1 車いす、リヤカー及び担架を利用した要支援者搬送を行うことができた。 2 視覚障がい者の同行援助訓練を行うことができた。	雨天時等の要支援者避難訓練について、要支援者が濡れないような対応（雨具、ブルーシート等を活用）を検討する必要がある。
安定ヨウ素剤服用等訓練	安定ヨウ素剤服用説明～問診票記載～問診～薬剤配布～服用までの一連の流れについて体験することができた。	1 本来は一時集結所で行うべき事項であるが、一連の流れに関する理解を深めるためにも、引き続き訓練を計画する。 2 視察者等が余子公民館に集中した。視察者を分散させる等、参加者の訓練環境を過度に乱さない配慮を要望する。
安定ヨウ素剤搬送訓練	調剤拠点薬局からの安泰ヨウ素剤（水剤）の受領、一時集結所の場所（6カ所）、配送経路及び配送時間（23分）を確認できた。	地震による原子力災害を考慮し、迂回経路や車両進入不可時の徒歩による搬送を検討する。
原子力防災講座	鳥取大学講師による講座、避難に関するワークショップ、広域住民避難計画等説明(40)、災害発生時の対応について理解を深めた。	住民避難訓練と異なる日に講座を2回（2日）開催したが、参加者が33名と少なかった。多少時間が長くなっても、住民避難訓練に併せて実施すれば、参加者も多く訓練効率が上がる。

2

訓練実施状況(全般)

細部実施状況 (初動対応訓練)

1 災害対策本部等運営訓練

- ① 境港市本部運営訓練の開催
- ② 防災ネットワークシステムを利用したテレビ会議
 - ◇ 訓練参加者：15名 (リエゾンを含む)
- ③ 境港警察署及び境港消防署派遣員との情報共有
 - ◇ 訓練参加者：各署1名
- ④ 中国電力派遣員による事象報告
 - ◇ 訓練参加者：2名



本部運営訓練

<主な成果>

- ① 境港市警戒本部運営訓練及び境港市災害対策本部運営訓練開催による、情報共有、本部長の指示の確認等を実施
- ② 県災害対策本部会議に参加 (TV会議)
- ③ 国・2県6市TV会議に参加
- ④ 災害時の組織的な通信連絡 (通信及びTV会議) の実効性の確認
- ⑤ 中国電力の情報連絡員による事象想定に関する専門的な説明



2県6市TV会議